

低濃度 PCB 含有絶縁油焼却実証実験結果 環境省



環境省は全国3か所の産業廃棄物処理施設で実施していた、低濃度 PCB を含む絶縁油の焼却実証試験の結果を6月29日に公表しました。

PCBが含有していないと思われていた変圧器(トランス)の中に、実際には低濃度ではあるが PCB に汚染されているケースが多数あることが判明したため、これらの低濃度 PCB 含有絶縁油の処理体制整備が現在の課題となっています。

今回の実験は、1,100℃以上の高温、2秒以上の滞留で焼却できる既存の産業廃棄物処理施設・熔融施設において、低濃度PCB汚染物が安全かつ確実に処理できることを確認することが目的となります。具体的には、全国3ヶ所の施設で平成18年3月に数十 ppm 程度の PCB 含有絶縁油を焼却し、排ガス・排水中の PCB 濃度を分析し確認を取ったものです。

実験結果は、排ガス・排水中の PCB・ダイオキシン類濃度がいずれの施設でも関係法令に定められている基準値を下回ったと確認されたほか、試験試料投入の有無にかかわらず濃度に顕著な変化がなかったことから、低濃度 PCB 含有絶縁油の投入による排ガス・排水への影響はないと結論されました。

また、施設の敷地境界における大気中のPCB濃度、施設の周辺における大気中のダイオキシン類濃度においても、関係法令に定める基準値よりも低いことが確認されました。

今後、協力が得られる他の施設においても、焼却実証試験を実施していくとしています。

当社では絶縁油中のPCB分析を行っておりますので、是非お任せ下さい。

資料 2006年6月29日付 環境省報道発表資料

2006年6月29日付 EICネット

環境分析箇所 田沼祐樹